
最初の登頂者

細桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最初の登頂者

【Nコード】

N1029K

【作者名】

細桜

【あらすじ】

未開の山を上っている男の話。

彼は幼い頃から夢があった。今、それが叶う一歩手前に……

(前書き)

山について知識がないので、間違っている部分があるかもしれませんが、楽しんで読んでくれれば嬉しいです。

辛い。

今の気分を一言で現すと、真つ先にこの言葉が浮かんでくる。

けれども、その次に来るのは、「嬉しい」という言葉だ。

烈は重装備で、つんけんした山肌を登っていた。縦から横から、石つぶてのような雪が、吹き荒れる風に乗って烈に当たる。

「あと少しで頂上だ」

先をリードしていた先輩が言う。その声は期待に満ちていて、やっと終わる、という石が読み取れる。

その声を聞き、烈の心は深く沈んでいく。心が沈んだ所は、酷く濁っていて、しかし、不釣り合いな程綺麗な光が満ちている。それは、通常の人にはあってはならないモノだと、烈は理解している。

理解しているからこそ、心の声を素直に聞く。

烈はピッケルを持つ手に力を込め、腕を振り上げる。

目の前を歩いている先輩に恨みはない。むしろ、自分の夢が叶うのは彼がいたからこそだ。いや、利用させてもらった。

けれども、この夢は自分一人の為の夢である。

「先輩は邪魔だ」

烈は振り上げたピッケルを彼の脳天に突き刺す。

先輩は、ただ前のめりに倒れただけだ。

声を出したのかもしれないが、吹雪の中では聞けるはずもない。

夢を叶えることが出来るのは彼のおかげなので、最後の声ぐらい聞こう、と思つて先輩をひっくり返す。多少、苦労したけれど、なんとか仰向けに出来た。

「これじゃ聞けないな」

先輩は、はたと見て分かる程に絶命していた。血が止まったことにより、熱を失った顔は青くなっている。

見ている間にも、その上に雪が積もっていく。

烈は最後の声を聞くのを諦めて、自分の夢を叶える為に頂上を目指す。

誰も足を踏み入れていない山に一番最初に登頂する。

それは、一人でなきゃ駄目なのだ。

最初の名譽を独り占めする。

これは、子供の頃からの夢だ。何故、この様な夢を抱いたのか忘れてしまった。テレビか本で山に登る人を見て憧れたのか。それとも、最初の一人、というのになりたくて、山を選んだのか。けれども、今の時代には未開の山などそうそうない。

夢を諦めかけた時、未登頂の山が見つかった。

それが、今登っている山だ。

だれもがこの未開の山に登っているが、ここまでこれたのは自分達だけだ。他の者は、途中のクレバスや雪崩で登頂を諦めている。

これは神が自分に与えたチャンスだと、烈は感じている。

子供の頃から願ひ続け、祈っていた自分に、神が奇跡を起こしたのだと。

だから、ためらいなく先輩を殺せた。

自分の心の底を照らしているのは、神なのだ。

「……登った。登りきった」

山の頂上に、烈は立っている。

周りには登るための地面がなく、空中があるだけだ。

胸の底の光が、体の中を埋めていく。

幸せ。

今の気分を一言で表すのなら、これだ。

登ってきた方を見ると、すでに辺り一面真っ白になっていて、先輩の体は雪で埋まっている。

ありがとう、と心の中で感謝の言葉を告げる。

「……？」

ふと、地面に白に馴染まない色があった。その物体は、半分が雪で埋まっている。吹雪で雪が積もると、吹雪が雪をどけていく。そ

うして、馴染まない色は顔を出している。

手に取ると、指すような冷たさが手袋越しに伝わってくる。

その冷気が、体の中の光を凍らした。

物体は、あっけなく抜けた。

そして、それを見て、体を満たしていた光が、黒く染まる。

「鉄の……剣……？」

明らかに、人工物であった。鉄を加工して作ってある剣。

人工物があるということは、ここに人が来たことあるということだ。

それが、いつのことが分からない。けれど、自分が初めての登頂者でないと分かる。

「先輩を殺して……ここに来たのに……」

神だと思っていたものは、悪魔だった。

その後、彼の名前は新聞やテレビを賑わすことになる。

歴史の遺物を発見し、人を殺した人物として。

そして、彼の名前の前には「最初」という言葉が飾られていた。最初に遺物を発見し、謎多き山で最初に人を殺した人物として。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1029k/>

最初の登頂者

2010年10月12日03時08分発行